

## ドーピング検査Q & A

JOCアンチ・ドーピング委員会

Q．ドーピングとは何ですか？

A．ドーピングとは競技能力を高めるために薬物などを使用することで、ルールで禁止されています。ルールでは禁止リストに示される物質の使用や方法がドーピングにあたります。ドーピング検査で禁止物質の使用や方法がドーピングに当たります。ドーピング検査で禁止物質が検出されれば、治療目的であっても制裁が課されますので、ルールをよく理解しておく必要があります。

Q．ドーピングは何故いけないのですか？

A．1) 競技者の健康を害する、2) フェアプレーの精神に反する、3) 反社会的行為である、という理由で禁止されています。「ずる」くて「危険」な行為を容認することは健全なスポーツの発展を妨げます。

Q．禁止薬物・方法を教えてください。

A．I O Cの禁止リストは、1) 禁止物質の種類、2) 禁止方法、3) 一定の規制の対象となる物質の種類があります。

Q．ドーピング検査はどのようなものですか？

A．ドーピング検査は尿を採取し、これをI O C公認検査機関で分析します。ドーピング検査には「競技会ドーピング検査」と「協議会外ドーピング検査」とがあります。「競技会ドーピング検査」ではすべての禁止物質・方法が対象となりますが、「協議会外ドーピング検査」では蛋白同化剤、利尿剤、隠蔽剤など一部が対象となります。

Q．競技会外ドーピング検査はどのようなものですか？

A．トレーニング期間中の不正を防ぐため、また競技者のクリーンさを証明するために行われます。トレーニング期間中に事前の通告なしに実施されることが多いですが、採尿等の手続きは競技会検査と基本的に同じです。

Q．競技会で事前申告が必要な薬がありますか？

A．ぜん息吸入薬(β-刺激剤)を使用する場合には、書面による医師の事前申告が必要です。競技連盟によっては局所麻酔剤、副腎皮質ステロイドの局所使用も事前申告が必要です。

Q．競技会ドーピング検査はどのように行われますか？

A．1) **通告**：検査対象者は競技終了後に担当者から通告されます。

2) **出頭**：通告されたら、決められた時間までにドーピング検査室に行かなければなりません。検査を拒否するとドーピング検査陽性とみなされます。検査室には1人の付き添いが認められます。

3) **採尿**：採尿容器を選び、同性の係員の立会いのもとに採尿します。

4) **分注・封印**：検体容器を選び、尿をA・B2つの検体容器に分注し、封をします。

5) **薬物の申告**：1週間以内に使用した薬物を申告します。

6) **署名**：検査用紙の記載内容、手続きに問題がなかったかを確認して署名します。検査用紙控え

を受け取り保管しておきます。

Q．お茶やコーヒーに含まれるカフェインは大丈夫ですか？

A．カフェインは興奮剤として禁止されています。ただし、お茶やコーヒーなどの嗜好品にも含まれているため、尿中の濃度で規制されています。普通の濃さで2～3杯飲んでも陽性となることはありませんが、一度に大量に飲むと陽性になる場合もあります。カフェインは感冒薬や滋養強壮ドリンク剤にも含まれているので、注意が必要です。

Q．市販の薬にも禁止物質は含まれていますか？

A．市販の総合感冒薬や鼻炎用内服薬のほとんどにはエフェドリン、フェニルプロパノールアミン等の禁止物質が含まれています。葛根湯など一部の漢方薬には麻黄を含むものがありますが、麻黄には禁止物質のエフェドリンが含まれています。強精剤の一部には禁止物質のメチルテストステロン（蛋白同化剤）が含まれています。海外で栄養補助食品として市販されているDHEA（デヒドロエピアンドロステロン）、アンドロステンジオンは禁止物質です。海外で市販されている鼻づまりの吸入薬の中には、デソキシエフェドリン（覚醒剤）の含まれているものがあり、ドーピングだけでなく日本国内への持ちこみも禁止です。市販の薬や栄養補助食品を使用する際には必ず成分を確認し、ドーピングに詳しいドクターに相談して下さい。

Q．検査で陽性になったらどうなりますか？

A．A検体から禁止物質が検出され、本人が認めればドーピング検査陽性となり、制裁が課されます。本人が要求すればB検体の確認検査が行われます。B検体もA検体と同じ所見であればドーピング検査陽性となり制裁が課されますが、制裁を決定する前に本人には弁明の機会が与えられます。制裁には成績・記録の末梢、資格停止などがあります。

Q．風邪のときはどうしたらよいですか？

A．症状に応じて、禁止物質でない薬がありますから、医師から適切な処方を受けて下さい。競技会と1週間以上期間があいていれば、市販の総合感冒薬でも服用できます。適切な判断が下せるのであれば、心配ありません。

Q．治療のために医師から薬を処方されていますが、大丈夫ですか？

A．病気の治療薬にも禁止物質があります。たとえば、（1）ぜん息の内服薬・吸入薬、（2）痛風でのプロベネシド（尿酸排泄剤）、（3）高血圧のβ-遮断剤・利尿剤、（4）胃炎・嘔吐へのオキセサゼイン（ストロカイン）などです。処方される薬については主治医から良く説明を受けて、薬物名を記録しておきます。一般の医師で判断に迷う場合は、ドーピングに詳しいスポーツドクターにチェックしてもらいます。通常は禁止物質以外の薬で十分治療できます。治療のために禁止物質がどうしても必要な特殊な場合には、事前に競技の医事責任者に相談して下さい。

Q．わからないときはどこに相談したらいいですか？

A．ドーピングコントロールのルールは競技連盟によって異なる場合があります。まず、所属する競技連盟の医事委員会に問い合わせて下さい。競技連盟でわからない場合には、JOCのアンチドーピング

委員会、日本体育協会ドーピングデータベース班に問い合わせして下さい。

## 禁止物質と禁止方法のリスト

(IOC:2003 1月)

禁止物質のリストは「例示」であって、同じ効果を持つ物質も禁止物質と見なされる。

### < 禁止物質の種類

#### A. 興奮剤

アミネプチン、アミフェナゾール、アンフェタミン類、プロマンタン、カフェイン\*、カルフェドン、コカイン、エフェドリン類\*\*、フェンカンファミン、メソカルブ、ペンテトラゾール、ピプラドロール、サルブタモール\*\*\*、フォルモテロール\*\*\*、サルメテロール\*\*\*、テルブタリン\*\*\* および関連物質

\* : カフェインは、尿中濃度が $12\mu\text{g/ml}$ を越える場合陽性

\*\* : エフェドリンは尿中濃度が $10\mu\text{g/ml}$ を超える場合陽性

\*\*\* : ぜん息の治療を目的とした吸入のみ認められる。書面による申告が必要

#### B. 麻薬性鎮痛剤

ブプレノルフィン、デキストロモラミド、ジアモルヒネ(ヘロイン)、メタドン、モルヒネ、ペンタゾシン、ペチジン

および関連物質

注 : コデイン、デキストロメトルファン、デキストロプロポキシフェン、ジヒドロコデイン、ジフェノキシラート、エチルモルヒネ、フォルコジン、プロポキシフェンおよびトラマドールの使用は認められる。

#### C. 蛋白同化剤

##### 1. アナボリック・アンドロジェニック・ステロイド

(a) クロステボール、フルオキシメステロン、メタンジエノン、メテノロン、ナンドロロン、19-ノルアンドロステンジオール、19-ノルアンドロステンジオン、オキサンドロロン、スタノゾロール および関連物質

(b) アンドロステンジオール、アンドロステンジオン、デヒドロエピアンドロステロン(DHEA)、ジヒドロテストステロン、テストステロン および関連物質

##### 2. その他の蛋白同化剤

クレンプテロール、サルブタモール

#### D. 利尿剤

アセタゾラミド、ブメタニド、クロルタリドン、エタクリン酸、フロセミド、ヒドロクロロチアジド、マンニトール、マーサリル、スピロラクトン、トリアムテレン および関連物質

#### E. ペプチドホルモン、類似物質およびその同族体

1. 胎盤性性腺刺激ホルモン(hCG)

2. 下垂体性および合成性腺刺激ホルモン類(LH)

3. コルチコトロピン類(ACTHなど)

4. 成長ホルモン (hGH)
5. インスリン様増殖因子 (IGF-1)  
およびこれらの全ての放出因子、同族体
6. エリスロポエチン (EPO)
7. インスリン：インスリン依存性糖尿病の治療にのみ認められる。書面による申告が必要。

#### F. 抗エストロゲン作用剤

アロマターゼ阻害剤、クロミフェン、シクロフェニル、タモキシフェン、以上男子のみ禁止。

#### G. 隠蔽剤

利尿剤、えびテストステロン、プロベネシド、血漿増量剤

### < > 禁止方法

#### A. 酸素運搬の促進

- a. 血液ドーピング：自己血、同種血、異種血、その他赤血球製剤を正当な医療目的以外で使用する  
こと。
- b. 修飾ヘモグロビン製剤、ヘモグロビンのマイクロカプセル製剤、他の酸素の摂取、運搬、輸送  
を促進するような製剤の投与。

B. 薬理的、化学的、物理的操作：尿の取り替え、カテーテルの使用、腎排泄の抑制など。

#### C. 遺伝子ドーピング

競技力向上の可能性を有する遺伝子、遺伝因子あるいは細胞を治療目的以外で使用する  
こと。

### < > ある特定スポーツで禁止される物質

- A. アルコール：競技連盟によっては禁止
- B. カンナビノイド類（マリファナなど）：オリンピック大会では禁止、そのほかは競技連盟によ  
る
- C. 局所麻酔剤：局所使用のみ許可、競技連盟によっては申告が必要
- D. コルチコステロイド（副腎皮質ステロイド）：局所使用のみ許可、競技連盟によっては申告が  
必要
- E.  $\beta$  遮断剤：アセプトロール、アルプレロール、アテノロール、ラベタロール、メトプロロー  
ル、ナドロール、オクスプレノロール、プロプラノロール、ソタロール、及び関連物質。競技連盟  
によっては禁止

## 安心して使える薬の代表例

2003年7月8日 改訂日本陸連医事委員長 山澤文裕氏より

(2003年7月時点のものです。この後改定されることがありますので御注意ください。)

### 1、頭痛・発熱・生理痛

バファリン (アスピリン)

ロキソニン (ロキソプロフェン)

ブルフェン (イブプロフェン)

アスピリン (アセチルサリチル酸)

ポンタール (メフェナム酸)

ボルタレン (ジクロフェナックナトリウム)

ピリナジン (アセトアミノフェン)

カロナール (アセトアミノフェン)

バイエルアスピリン

イブ

バファリン A

フェリア

ニューロフェン

エコルネ

タイレノール A

チュアノン

下記薬剤に注意

カフェイン

## 2. 片頭痛

イミグラン (スマトリプタン)

ゾーミッグ (ゾルミトリブタン)

レルパックス (エレトリブタン)

下記薬剤に注意

カフェルゴット、クリアミンAにカフェインが含まれている。

### 3、咳・痰

レスプレン (エブラジノン)

ノレブタン (塩酸ホミノベン)

アスベリン (ヒベンズ酸チペピジン)

メジコン (臭化水素酸デキストロメトルファン)

アストミン (リン酸ジメモルファン)

テオドール (テオフィリン)

ユニフィル (テオフィリン)

ムコソルバン (アンブロキシソール)

ビソルボン (塩酸ブロムヘキシン)

ムコダイン (カルボシステイン)

リン酸コデイン末 (リン酸コデイン)

エスエスプロン「カリュー」

スカイナーせき・たん用

ストナコフ

せきどめクールチュアブル

下記薬剤は禁止

メトキシフェナミン

フェニルプロパノールアミン

メチルエフェドリン

シュードエフェドリン

エフェドリン

マオウ

#### 4、のどの痛み

イソジンガーグル（ポピドンヨード）

含嗽用ハチアズレ（水溶性アズレン）

オラドールトローチ（臭化ドミフェン）

S P トローチ（デカリニウム）

イソジンうがい薬

ルルうがい液

パブロンうがい薬

#### 5、鼻みず・鼻つまり

レスタミン（塩酸ジフェンヒドラミン）

ポララミン（マレイン酸クロルフェニラミン）

タベジール（フマル酸クレマスチン）

ゼスラン（メキタジン）

アレグラ（フェキソフェナジン）

アレジオン（エピナスタチン）



バイナス（ラマトロバン）

タリオン（ベシル酸ベポタスチン）

ジルテック（塩酸セチリジン）

アレロック（塩酸オロパタジン）

ブリビナ点鼻（硝酸ナファゾリン）

タミナスA錠

プラタギン

アレギトール

レスタミンコーワ糖衣錠

アレルギール錠

ナザールスプレー

パブロン点鼻

ナーベルスプレー

ルル点鼻スプレー

ジヒデルゴット（ジヒドロエルゴタミン）

ミグシス（塩酸ロメリジン）

## 6 . 細菌感染

サワシリン（アモキシシリン）

ケフラール（セファクロル）

パンスポリンT（塩酸セフォチアムヘキセチル）

セフゾン（セフニジル）

フロモックス（塩酸セフカペンボキシル）

ルリッド（ロキシスロマキシム）

クラリス（クラリスロマイシン）

ジスロマック（アジスロマイシン）

クラビット（レボフロキサシン）

スパラ（スパルフロキサシン）

シプロキサ（塩酸シプロフロキサシン）

ガチフロ（ガチフロキサシン）

イスコチン（イソニアジド）

リマクタン（リファンピシン）

エサンブトール（塩酸エタンブトール）

ほとんどの抗生物質は可能  
医師の処方のみで入手可能

## 7、酔い止め

トラベルミン（ジフェンヒドラミン、ジプロフィリン）

ドラマミン（ジメンヒドリナート）

センペア

トラベルミン

スヨロミン

タイザー

下記薬剤に注意

カフェイン

## 8、胃炎・消化性潰瘍

アルサルミン（スクラルファート）

マーロックス（水酸化アルミニウムゲル、水酸化マグネシウム）

ムコスタ（レバミピド）

セルベックス（テプレノン）

ガストローム（エカベト）

ノイエル（セトラキサート）

プロマック（ポラプレジンク）

ザンタック（ラニチジン）

ガスター（ファモチジン）

ノウゼリン（ドンペリドン）

リサモール（シサプリド）

オメプラール（オメプラゾール）

タケプロン（ランソプラゾール）

パリエット（ラベプラゾール）

イノセア胃腸内服液

サクロンS錠

センロック錠

マーロックスプラス

パンシロンG

ソルマック

新三共胃腸薬

コランチルA顆粒

イノセアグリーン

ブスコパンA錠

ザッツブロック

フロンティア錠

シグナル胃腸グリーン

新中外胃腸薬顆粒

ガスター10

下記薬剤は禁止

ストロカイン（オキセサゼイン）

プロマックは微量元素の亜鉛を含む胃薬

韓国の薬局では興奮剤であるストリキニンを含むホミカを含有する胃腸薬を市販しているので要

注意

## 9, 下痢・腸炎

ラックビー (ビフィズス菌)

トランコロン (臭化メペンゾラート)

ロペミン (塩酸ロペラミド)

タンナルピン (タンニン酸アルブミン)

ビオフェルミン R (ラクトバシルス)

ブスコパン (臭化ブチルスコポラミン)

フェロベリン (塩化ベルベリン)

リン酸コデイン末 (リン酸コデイン)

コロネル (ポリカルポフィルカルシウム)

ペンタサ (メサラジン)

タフマック E

強ミヤリサン錠

新ビオフェルミン S 錠

新ラクトーン A

アクロミンカプセル A

エクトール

サンベリン S 錠

正露丸

シグナル下痢止め

大正下痢止め<錠剤>

ラクトコート

ワカ末錠

ブスコパンA錠

下記薬剤は禁止

アヘン

必要に応じて、抗生物質を併用する。

## 10、便秘

アローゼン（センナ）

アロエ（アロエ）

プルゼニド（センノシド）

ラキソベロン（ピコスルファナトリウム）

コーラック（ピサコジル）

アジャストA（センナ）

酸化マグネシウム（酸化マグネシウム）

テレミンソフト（ピサコジル）

アロエ錠「MY」

ウイズワン

カイベールC

コーラック

サラータP

ワカモト便秘薬

ピコラックス

サトラックスエース

ココアポA錠、S錠および防風通聖散を含む便秘薬は、マオウを含むので禁止。

## 11．鉄欠乏性貧血

フェログラデュメット（硫酸鉄）

スローフィー（硫酸鉄）

フェロミア（クエン酸第1鉄ナトリウム）

フェルム（フマル酸第1鉄）

フェジン注（含糖酸化鉄）

シナール（ビタミンC）

エミネトン

フマレッドカプセル

ヘマニック

下記薬剤は禁止

エスポー（エリスロポエチン，EPO）

エポジン（エリスロポエチン，EPO）

ダイネスポ（ダーベポエチン，DPO）

輸血、人工赤血球、血液成分輸注、自己血輸血、

血漿増加剤

## 12、じんましん・アレルギー性皮膚炎

ポララミン（クロルフェニラミン）

レスタミン（ジフェンヒドラミン）

タベジール（クレマスチン）

アタラックス（ヒドロキシジン）

アゼプチン（アゼラスチン）

アレグラ（フェキソフェナジン）

ジルテック（セチリジン）

アレロック（オロパタジン）

アレジオン（エピナスタチン）

エバステル（エバスチン）

ザジテン（ケトチフェン）

レスタミン軟膏（ジフェンヒドラミン）

アンダーム軟膏（ブフェキサマク）

ロコイド軟膏（酪酸ヒドロコルチゾン）

リンデロンVGクリーム、軟膏（ベタメタゾン配合）

デルモベート軟膏（プロピオン酸クロベタゾール）



レスタミンコーワ糖衣錠

アネミン内服錠

アレギトール

ネオレスタミンコーワソフトカプセル

アレルギール錠

プラタギン

ラナケインS

新オイラックスG

アレルギールクリーム

ウナコーワA

エスアランHクリーム

ステロイド入り軟膏は医事申告書不要。

ドーピング検査の際、口頭で伝える。

### 13、結膜炎・ものもらい

サンテマイシン点眼（マイクロマイシン）

ゲンタシン点眼（ゲンタマイシン）

エコリシン点眼、眼軟膏（コリスチンメタンスルホン酸）

タリビッド点眼、眼軟膏（オフロキサシン）

クラビット点眼（レボフロキサシン）

アイディュー点眼（イドクスウリジン）

インターール点眼（クロモグリク酸ナトリウム）

ザジテン点眼（フマル酸ケトチフェン）

アレギサル点眼（ペミロラスト）

ニフラン点眼（プラノプロフェン）

サンテゾーン点眼（リン酸デキサメタゾンナトリウム）

フルメトロン点眼（フルオトメトロン）

アイリス

アスパラ目薬L

サンテ40ハイ

サンテドウ

新V・ロートEX

オブターナピュア

マイティアOA

アイラートAG

アルガードCT点眼薬

ステロイド入り点眼薬は医事申告書不要。

ドーピング検査の際、口頭で伝える。

#### 14、鼻炎・花粉症

ポララミン（クロルフェニラミン）

レスタミン (ジフェンヒドラミン)

タベジール (クレマスチン)

アタラックス (ヒドロキシジン)

アレグラ (フェキソフェナジン)

ジルテック (セチリジン)

アゼプチン (アゼラスチン)

アレロック (オロパタジン)

アレジオン (エピナスタチン)

エバステル (エバスチン)

バイナス (ラマトロバン)

インタール点鼻 (クロモグリク酸)

ザジテン点鼻 (ケトチフェン)

ブリビナ点鼻 (ナファゾリン)

ナーベル点鼻 (テトラヒドロゾリン)

アルデシンミニ鼻用 (プロピオン酸ベクロメタゾン)

リノコート (プロピオン酸ベクロメタゾン)

フルナーゼ (プロピオン酸フルチカゾン)

タミナス A錠

プラタギン

アレギトール

ネオレスタミンコーワカプセル

アレルギール錠

ナーベルスプレー

ナザール・スプレー

パブロン点鼻薬

ステロイド入り点鼻は医事申告書不要。

ドーピング検査の際、口頭で伝える。

#### 15、気管支炎・気管支喘息

テオドール（テオフィリン）

テオロング（テオフィリン）

ユニフィル（テオフィリン）

オノン（برانルカスト）

アコレート（ザフィルルカスト）

シングレア（モンテルカスト）

インタールエアゾル（クロモグリク酸ナトリウム）

アトロベントエアゾル（イプラトロピウム）

テルシガンエアゾル（オキシトロピウム）

サルタノールインヘラー（硫酸サルブタモール）

ベネトリン吸入液（硫酸サルブタモール）

アイロミールエアゾル（硫酸サルブタモール）

セレベントロタディスク（キシナホ酸サルメテロール）

アルデシンエアゾール（プロピオン酸ベクロメタゾン）

ベコタイドインヘラー（プロピオン酸ベクロメタゾン）

フルタイド吸入剤（プロピオン酸フルチカゾン）

バルミコートターピュヘイラー（ブデソニド）

エスエスブロン「カリュー」

スカイナーせき・たん用

ストナコフ

せきどめクールチュアブル

日本で使用可能なベータ作用剤はサルブタモール、サルメテロールの吸入剤のみである。

ベータ作用剤吸入の使用にあたっては医事申告書の提出を必要とする。

ベータ作用剤の内服、注射、貼付は禁止。

ステロイド入リエアゾールの使用にあたっては医事申告書は不要。口頭で申告する。

下記薬剤は禁止、これらは漢方薬や市販のかぜ薬に含まれている。

塩酸メチルエフェドリン

シュードエフェドリン

エフェドリン

マオウ

塩酸フェニルプロパノールアミン

メトキシフェナミン

## 16、高血圧

アダラート（ニフェジピン）

ヘルベッサー（ジルチアゼム）

バイミカード（ニソルジピン）

ノルバスク（アムロジピン）

アムロジン（アムロジピン）

コニール（ベニジピン）

ニバジール（ニルバジピン）

レニベース（マレイン酸エナラプリル）

ゼストリル（リシノプリル）

コナン（キナプリル）

チバセン（ベナゼプリル）

タナトリル（塩酸イミダプリル）

ニューロタン（ロサルタン）

プロプレス（カンデサルタン）

ディオバン（バルサルタン）

ミカルディス（テルミサルタン）

下記薬剤は禁止

すべての利尿薬

ベータ遮断剤（禁止している競技がある）

カルシウム拮抗剤、ACE阻害剤、ARBは使用可能。

また、陸上競技ではベータ遮断剤は使用可能。

## 17、低血圧

ジヒデルゴット（メシル酸ジヒドロエルゴタン）

下記薬剤は禁止

エフォチール（エチレフリン）

エフォリン（エチレフリン）

カルニゲン（ヒドロキシエフェドリン）

## 18、高脂血症

メパロチン（プラバスタチンナトリウム）

リポバス（シンバスタチン）

リピトール（アトルバスタチンカルシウム）

コレバイン（コレステミド）

ベザトールSR（ベザフィブラート）

リパンチル（フェノフィブラート）

## 19、糖尿病

ラスチノン（トルブタミド）

ダオニール（グリベンクラミド）

アマリール（グリメピリド）

メルピン（メトホルミン）

グルコバイ（アカルボース）

ベイスン（ボグリボーズ）

インスリン製剤

インスリン製剤使用時には、医師の診断書提出が必要。

## 20、痛風・高尿酸血症

コルヒチン（コルヒチン）

ザイロリック（アロプリノール）

アロシトール（アロプリノール）

ボルタレン（ジクロフェナック）

ブルフェン（イブプロフェン）

ポンタール（メフェナム酸）

インダシン（インドメタシン）

フェリア

イブ

バファリンA

バイエルアスピリン

下記薬剤は禁止



プロベネミド (プロベネシッド)

ベネシッド (プロベネシッド)

## 21、無月経

プレマリン (結合型エストロゲン)

デボシン (メストラノール)

デュファストン (ジドロゲステロン)

エデュレン (酢酸エチノジオール、エチニルエストラジオール)

ドオルトン (ノルゲストレル、エチニルエストラジオール)

### 下記薬剤は禁止

エッチシージー

ゴナドトロピン

エッチエムジー

ヒュメゴン

フェリティノームP

## 22、外傷・障害

ブルフェン (イブプロフェン)

アスピリン (アセチルサリチル酸)

ポンタール (メフェナム酸)

ボルタレン (ジクロフェナックナトリウム)

ピリナジン (アセトアミノフェン)

ナイキサン (ナプロキセン)

インダシン (インドメタシン)

フェルデン (ピロキシカム)

ロキソニン (ロキソプロフェン)

ブルフェン (イブプロフェン)

アスピリン (アセチルサリチル酸)

ポンタール (メフェナム酸)

ボルタレン (ジクロフェナックナトリウム)

ピリナジン (アセトアミノフェン)

ナイキサン (ナプロキセン)

インダシン (インドメタシン)

フェルデン (ピロキシカム)

ロキソニン (ロキソプロフェン)

クリノリル (スリンダク)

ランツジール (アセメタシン)

キシロカイン (リドカイン) 局所・関節内注射

マーカイン (塩酸ブピバカイン) 局所・関節内注射

カルボカイン (塩酸メピバカイン) 局所・関節内注射

オムニカイン (塩酸プロカイン) 局所・関節内注射

シタネスト（塩酸プロピトカイン）局所・関節内注射

デカドロン（デキサメタゾン）局所・関節内注射  
リンデロン（ベタメタゾン）局所・関節内注射

ケナコルト（トリアムシノロン）局所・関節内注射

インテバン軟膏（インドメタシン）

モビラート軟膏

アドフィード（フルルビプロフェン）

ナパゲルン（フェルピナク）

モーラス（ケトプロフェン）

カトレップ（インドメタシン）

イソジン（ポピドンヨード）

ヒビテン（グルコン酸クロルヘキシジン）

オキシドール（オキシドール）

イブ

バファリンA

フェリア

バイエルアスピリン

イソジンS

オキシドール

オスバンS

オロナインH軟膏

希ヨードチンキ

マキロン

エアーサロンパスEX

アンメルツヨコヨコ

キュウパップE

ゼノールエクサムA

チールA

トクホンIDゲル

パテックスIDクリーム

バンテリンコーワクリーム

メンフラアイススプレー

サロンパス30

オリンピック、アジア大会、ユニバーシアード、東アジア大会、国体では、局所麻酔剤および

ステロイド剤の局所・関節内注射にあたっては、医事申告書を必要とすることがある。

陸上競技大会では、口頭で申告する。

## 23、不眠、不安

ベンザリン（ニトラゼパム）

インスミン（フルラゼパム）

マイスリー（酒石酸ゾルピデム）

リーゼ（クロチアゼパム）

セルシン（ジアゼパム）

デパス（エチゾラム）

海外へ持ち込むときは、診断書を要することがある。

## 24、痔

ヘモナーゼ（プロメライン、ビタミンE配合）

ボラギノールN（シコンエキスなど）

強力ポステリザン軟膏（ヒドロコルチゾンなど）

エスジール錠

新エフレチン軟膏

ボラギノールM軟膏

ボラギノールA注入軟膏

ピリザエース軟膏

ステロイド含有軟膏については口頭で申告する。

## 25、経口避妊薬

トリキュラ21（L / E）

トリキュラ28（L / E）

トライディオール21（L / E）

トライディオール28（L / E）

リビアン21 ( L / E )

リビアン28 ( L / E )

アンジュ21 ( L / E )

アンジュ28 ( L / E )

マーベロン21 ( D / E )

マーベロン28 ( D / E )

L , D , E は下記薬剤を示す

L : レボノルゲストレル

D : デソゲストレル

E : エチニルエストラジオール

ノルエチステロンを含む経口避妊薬を使用している場合は、ドーピング検査で必ず口頭で申告すること。

## 26、インフルエンザ

インフルエンザHAワクチン

アマンタジン ( 塩酸アマンタジン )

リレンザ ( ザナミビル )

タミフル ( リン酸オセルタミビル )

ワクチンは毎年11月頃に接種するのが望ましい。

13歳以上は1回接種で良いとされる。

ただし、感染予防ではなく、重症化予防である。